

戸外遊嬉

かごめ遊び

右にかきましたのは皆さんが、よくごぞんじの、かごめのうたを、少しかえたのです、うたつてごらんなさい、ちぎに、うたえます。

又歌が覺えられましたら、遊嬉をしてごらんなさい、その仕方わ、先の大勢で手を引いて輪を造り、輪が出来ましたら、その中から二三人、又は四五人出て鳥になり、輪のまん中にかいんで、眼をふさいでねたまねをして居るのです、まわりの輪わ、籠になつて、かごめかごめをうたいながらまわり、その歌が、おしまいになると、中の鳥は起き出して、鳥のなきごえをまね、手をはねのよゝに動かして、まわりの者につかまるのです、とまられた者わ、かわつて次の鳥になるのです。

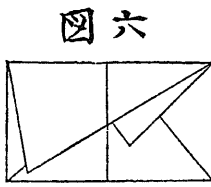
此鳥は雀とか、鶏とかきめておいてもよし、又なつた人の勝手にしても、よろしうございます。

室内手遊

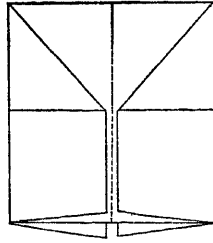
摺み方

今度は又別の摺み方です、先づま四角な紙の、邊と邊とを合せて長い四角にし、それを又横に二つに折つて、まん中に線をつけ、兩方のはしを、一圖のよゝにまん中で合せ、又そのはしをひろげて、二圖のよゝにし、次ぎにひろげた所を、三圖のよゝに折りかえし、又そのふちの裏の出ている所を、二つに折り又二つに折つて四圖のよゝにいたすのです、これわ紙入でございます。

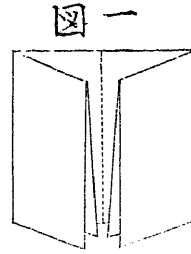
次ぎわ狐の面ですが、これわ始めわ紙入と同じよゝにして、ふちを四つに折る所を、五圖のよゝ



図六



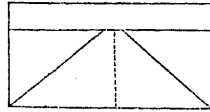
三圖



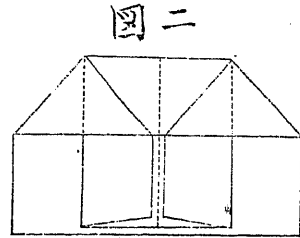
図一



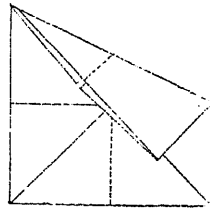
図七



四圖



図二



五圖

十四
に斜に折り、又六圖のよりに折り、中え指を入れ
てひろげて、七圖のよりにいたすのです。

天狗の面

やまとの翁

今から何十年前か前のこと、世は未だ明治とはな
らぬ徳川の時代、こゝに大坂から和歌山へ通ふ道
中に紀見峠として、夫はく峻しい山道があつた、
今ならば、瀟車で以て一時間もかゝらずに、寝て
居て一日の中に何度も往復が出来るのであるが、
其時分には、どゝしても此山を越して二日もかゝ
つて歩いて行かなければならなかつたとのこと。
ある年の十二月の大晦日、紀州の、一人の商人、
これは子供の玩具を商人であるが、元正月に賣
る品物を澤山大坂で仕入れて、何んでも明日はあ